枕草子（2）

清少納言

枕草子（まくらのそうし）

春はあけぼの。①やうやう（ヨウヨウ）白くなりゆく山際（やまぎは）（ワ）、少しあかりて、
春は明け方（がよい）。　明るくなって、
紫（むらさき）だちたる雲の細くたなびきたる。
紫がかった雲が　細くたなびいている（のがよい）。

夏は夜。②月の頃（ころ）はさらなり、
闇（やみ）もなほ（オ）、蛍（ほたる）の多く飛びちがひ（イ）たる。
闇もやはり、　蛍が多く飛び交っている（のがよい）。
また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行く（ゆ）もをかし（オ）。
ただ（蛍が）一、二匹など、ほのかに光って飛んでいくのも　風情がある。
雨など降るもをかし（オ）。

秋は夕暮れ。夕日の差して山の端（は）いと近う（ちか）（コ）なりたるに、
夕日が差して山の端にたいへん近くなった頃に、
烏（からす）の寝所（ねどころ）へ行くとて、三つ（み）四つ（よ）、二つ三つなど、
烏がねぐらに行くというので、三、四羽、　二、三羽などと、
飛び急ぐさへ（エ）あはれ（ワ）なり。
飛び急ぐことまでもしみじみと趣深い。
まいて雁（かり）などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし（オ）。
まして　雁などが列になって（飛んで）いるのが、
日入り（い）果てて、③風の音、虫の音など、はた言ふ（ウ）べきにあらず。
日が沈んでしまって、　風の音、虫の音など（が聞こえてくるのも）、また言うまでもない。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふ（ウ）べきにもあらず、
早朝　雪が降っている早朝は言うまでもなく、
霜（しも）のいと白きも、またさらでもいと寒きに、
霜がとても白いのも、またそうでなくても（霜などがなくても）とても寒いときに、
火など急ぎおこして、炭持て（も）渡る（わた）も、いとつきづきし。
炭を持って通っていくのも、たいへん（冬の早朝に）似つかわしい。
昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、
（寒さが）しだいに暖かくゆるんでいくと、
※火桶（ひをけ）（オ）の火も、白き灰がちになりてわろし。
白い灰ばかりになってよくない。
（第一段）

※火桶…木製の丸火鉢。

重要語句

あけぼの	明け方、空が明るくなる頃
やうやう	だんだんと・しだいに
山際	空の、山に接するあたり
なほ	やはり
をかし	風情（ふぜい）があってよい
山の端	山の、空に接するところ
いと	とても・たいそう
あはれ	しみじみと趣（おもむき）深い
つとめて	早朝
わろし	よくない

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「やうやう白くなりゆく山際」とはどのような様子を表しているか。適当なものを選びなさい。

ア 山の周囲のふもとが、かすかに白んでいく様子。
イ 山の尾根にあたる部分が、ようやく白んでいく様子。
ウ 山に近づいた太陽が、ほのぼのと白んでいく様子。
エ 山に接するあたりの空が、だんだんと白んでいく様子。

〔　　　〕

(2) ――線②「月の頃はさらなり」の意味を選びなさい。

ア 月の頃はさらに明るい
イ 月の頃はそうでもない
ウ 月の頃は言うまでもない

〔　　　〕

(3) ――線③「風の音、虫の音」の読みを、解答欄(かいとうらん)に当てはまるようにひらがなで答えなさい。

風(かぜ)の〔　　　〕、虫(むし)の〔　　　〕

(4) 冬の早朝に風情があることとして述べられているものに、当てはまらないものを選びなさい。

ア 早朝に雪が降っている様子。
イ 火を起こして炭を持って通っていく様子。
ウ 火鉢(ひばち)が白い灰ばかりになる様子。

〔　　　〕

(5) 本文で、各季節で特に風情があると述べられている時間帯をそれぞれ**ア**～**エ**から選びなさい。

春〔　　　〕　夏〔　　　〕
秋〔　　　〕　冬〔　　　〕

ア あけぼの　**イ** つとめて　**ウ** 夕暮れ　**エ** 夜